

平成 28 年度 丹波地域大学連携フォーラム

～僕らの活動は未来にどう繋がっているんだろう～

報告書

平成28年12月11日（日）13:00～18:30

衣川會館（丹波市青垣町佐治）

主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西学院大学、神戸大学、関西大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

はじめに

丹波地域では、現在、関西大学、関西学院大学、神戸大学の3つの大学が活動拠点を確保し、各地域の課題を踏まえたテーマのもとに、学生が中心となって地域を活性化しようとする取組みを展開されています。また、大学での授業やゼミ活動をきっかけとして自主的に地域と連携して活動を実践する学生グループも多数います。今年度も、兵庫医療大学が丹波市山南町和田で活動を始めるなど、丹波県民局が実施する「大学等による地域貢献活動推進事業」に採択された8団体をはじめとして、丹波地域の各地で地域と連携した様々な活動が展開されています。

このような状況を踏まえ、丹波地域で活動する学生グループの交流を通じて団体間のネットワークの形成を図り、それぞれの活動で生じた課題解決とともに、活動を終えた後も丹波地域との関わりを持ち続けてもらうことを期待して、「僕らの活動は未来にどう繋がっているんだろう」をテーマに、「平成28年度丹波地域大学連携フォーラム」を丹波市青垣町佐治にある衣川會館で開催しました。

フォーラムの会場としました衣川會館は、近年空き家となっていた築約100年のかつての青垣町の名士の邸宅を、関西大学の学生が地域の方と共に活用方法の検討を行い、地域コミュニティの拠点として改修・再生したものです。フォーラムの冒頭では、関西大学が約10年前に初めて地域に入ってから、地域の方と一緒に様々な取組みを行えるようになるまでに積み重ねてきた活動の経緯について、経験を交えて紹介していただきました。

続いて、学生達が今の活動を、自身や地域の将来にどのように繋げていくかを考えてもらうきっかけとなればと、大学生時代に丹波地域で地域活動を行ない、卒業後も丹波地域に住んで現在も地域活動を行っているOBの方より、自身の経験から感じていることについて、学生達にアドバイスをいただきました。このなかで、丹波に住んで活動を行うことはハードルが高いが、活動後も丹波のことを忘れず度々訪れることも貢献活動であること、学生が出来ることや地域から求められることをやるのではなく、自分達がやりたいことが地域に利益をもたらすことを提案することで、活動が面白く展開できるのではないかとのお話がありました。

また、丹波で活動している8つの学生団体からの報告では、参加者がグループに分かれ「自分達の活動の参考になったこと」、「活動を続けていくための秘訣と思ったこと」、「こうしたらもっと面白くなると思ったこと」、「活動に対する質問」を中心に、それぞれの活動に対してグループ内で意見交換した後に報告団体との質疑応答を行い、他のグループの議論も含めて参加者全員で共有しました。

学生からは、「山車や神輿の担ぎ手として若者が少なくなった祭りの支援」、「ツリーハウスを通しての地域との交流」、「大学生と地域の方との共同イベントの開催による交流の促進」、「高齢化の進む地域での農作業の手伝いや休耕田・里山の整備」、「鹿による獣害対策を兼ねたジビエの活用」、「漢方薬として使用されていないトウキの葉の活用を通じたセルフメディケーションの推進」、「利用客の増加に向けた駅前広場や周辺施設も含めた複合施設としてのJR柏原駅的设计提案」、「農業体験に留学生を巻き込み、自国の言葉によるSNSで地域の魅力を世界に発信」などが報告されました。地域の方からは、学生が地域に来て一緒に活動することを楽しみにしている、今年から学生と活動を始め特に祭りの時には地域に活気が出たなど、学生の活動を応援するコメントをいただきました。

今回のフォーラムを契機として、大学や学生たちの連携のネットワークがさらに広がり、大学卒業後も丹波地域に関わりを持ち続けていただくことで、今後も地域との交流が深まり丹波地域全体がより一層活性化していくことを願っています。

最後に、このフォーラムの開催にあたり多大なご協力をいただきました各大学や地域の関係者の方々、また、当日ご参加いただきました多くの方々に、改めて深く御礼を申し上げます。

目 次

I. 開催状況の写真	1
II. 開催概要	5
III. フォーラム	8
1. 開会挨拶	8
2. 主催者挨拶	9
3. 青垣町佐治での空き家活用の取組み 関西大学佐治スタジオ 研究員 出町 慎 先生	10
4. 学生時代の地域貢献活動が今の私に活かされていること（地域活動 OB）	18
関西大学佐治スタジオ室長 植地 惇 先生	18
神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ学術研究員 衛藤 彬史 先生	24
5. 学生からの地域貢献活動報告	28
(1) サンセット 12	28
(2) 学生団体 Clown	31
(3) ミライの輪	34
(4) ささやまファン倶楽部	41
(5) 神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会	44
(6) 兵庫医療大学東洋医薬部門	51
(7) Wake UP 柏原	56
(8) AGLOC	62
6. 地域課題解決で誕生したお菓子「ちょこべ」の紹介	66
7. 講評	67
IV. 参考資料	69
1. 各種ポスター	69
2. プログラム	71
3. 当日参加者アンケート	75
4. 実行委員会	92

I. 開催状況の写真

1 開会挨拶（実行委員会会長）



関西学院大学総合政策学部 教授 客野 尚志

2 主催者挨拶



丹波県民局 局長 柳瀬 厚子

3 青垣町佐治での空き家活用の取組み



関西大学佐治スタジオ 研究員 出町 慎

4 学生時代の地域貢献活動が今の私に活かされていること（地域活動OB）



関西大学佐治スタジオ 室長 植地 惇



神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ 学術研究員 衛藤 彬史

5 学生からの地域貢献活動報告



サンセット 12 (神戸大学)



学生団体 Clown (立命館大学)



ミライの輪 (神戸親和女子大学・甲南女子大学)



ささやまファン倶楽部 (神戸大学)



神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会 (神戸山手大学)



兵庫医療大学東洋医薬部門 (兵庫医療大学)



Wake UP 柏原（関西学院大学）



AGLOC（神戸大学）



意見交換の様子



意見交換の様子



意見交換の様子



意見交換の様子

6 地域課題解決で誕生したお菓子「ちょこべ」の紹介



「ちょこべ」についての説明



「ちょこべ」を試食した感想や意見の交換をしている様子

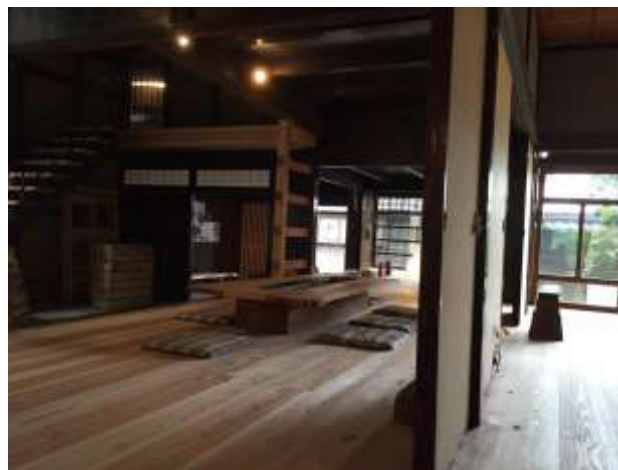
〔開催会場「衣川會館」〕



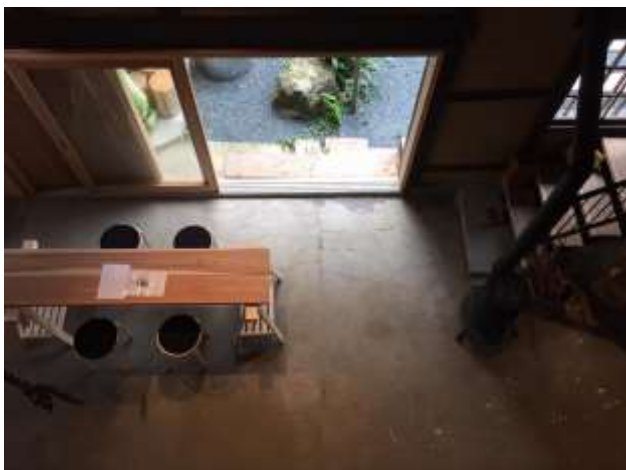
「衣川會館」外観



「衣川會館」内部



「衣川會館」内部



「衣川會館」内部

Ⅱ. 開催概要

丹波地域では、様々な大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど、各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。

これらの学生が参加するフォーラムを下記のとおり開催し、それぞれの活動内容について相互に理解を深めるとともに、参加者全員で意見交換し、これからの活動の方向性、丹波と自分の未来について展望しました。

記

- 1 日 時：平成 28 年 12 月 11 日（日）13:00～18:30
- 2 場 所：衣川會館（丹波市青垣町佐治 608）
- 3 テー マ：「僕らの活動は未来にどう繋がっているんだろう」
- 4 参加者数：70 名（大学生、大学教官、学生と活動する地域の方 他）

大学生（ 関学大、神戸大、立命館大、神戸親和女子大、甲南女子大、 神戸山手大、兵庫医療大、兵庫県立大 ）	37 人
大学教官、教育関係者	11 人
学生と活動する地域の方、丹波地域の住民の方、丹波地域の企業の方	9 人
県、市等行政職員	13 人
計	70 人

5 内 容：

(1) 青垣町佐治での空き家活用の取組み

- ・講師：関西大学佐治スタジオ 研究員 出町 慎 先生

(2) 学生時代の地域貢献活動が今の私に活かされていること

- ・講師：関西大学佐治スタジオ 室長 植地 惇 先生
神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ 学術研究員 衛藤 彬史 先生

(3) 学生からの地域貢献活動報告と質疑応答

- 司会：関西大学佐治スタジオ 出町 慎 先生、植地 惇 先生
- ・サンセット 12（神戸大学）
- ・学生団体 Clown（立命館大学）
- ・ミライの輪（神戸親和女子大学・甲南女子大学）
- ・ささやまファン倶楽部（神戸大学）
- ・神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会
- ・兵庫医療大学東洋医薬部門
- ・Wake UP 柏原（関西学院大学）
- ・AGLOC（神戸大学）

6 主 催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西学院大学、神戸大学、関西大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

7 事 務 局：兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課

8 報告概要：

《活動報告1》 サンセット12

大学の授業を通じて知り合った篠山市日置地区の祭りに参加しており、今年で3年目の活動になる。8月は波々伯部祭りで山車を引き、10月は城東味祭りの手伝いと日置祭りに神輿を担いで参加した。若者の減少により神輿の担ぎ手が少なくなった地区の祭りに参加し、盛り上げることで地域活性化を目指している。今年の新たな取り組みとしては、地域内の空き家をコミュニティスペースとして改修する作業を手伝ったり、年末には地域の子供達とクリスマス会を開催して交流の輪を広げた。団体としての活動は今年で一旦終わり、今後は個々人が活動を継続していくこととしている。

《活動報告2》 学生団体 Clown

丹波市柏原町の悠遊の森を拠点とし、子供たちにツリーハウスを通して自然と触れ合うことで自然の大切さを知ってもらうこと、建築の専門的学問を活かして学びの場としたいということ、ツリーハウスのある地域と交流することの3つのコンセプトを軸に「ツリーハウスから始まるつながりの輪」を理念として掲げて活動している。今年で3年目になり、丹波のみならず滋賀や京都にもツリーハウスを建て、活動の場を広げている。平成29年3月には丹波、滋賀、京都の3つのツリーハウスで、同時にそれぞれの地域の方を招いてのイベントを計画しており、テレビ中継などで3ヶ所のツリーハウスが繋がるような催しを企画している。

《活動報告3》 ミライの輪

丹波市山南町久下地区を活動地域として、『創造的イノベーション＝デザイン思考×システム思考』というテーマで地域活性化と地域ブランド化に取り組んでいる。複数の大学の学生で構成されており一同に集まることが難しいため、ミーティングはSkypeを使用している。9月には学生と地域の子供や若い世代から高齢者までが交流し楽しめるイベントとして「久下フェスタ」を開催した。また小豆の植え付け、収穫した小豆の選別、小豆を使ったお餅つきを行い、地域の方々と交流を深めた。これからは、「久下フェスタ」のような地域イベントの開催や地域の特産品を使った商品作りにも取り組んでいきたいと考えている。

《活動報告4》 ささやまファン倶楽部

篠山市真南条地区で里山休耕田の活用、地域の農業の活性化、地域イベントを活気付けることを目標に活動を始め、今年で7年目になる。地域の人たちの憩いの場、地域の子供たちの遊び場として利用できるように、里山の遊歩道整備や休耕田を田んぼビオトープとして活用する取り組みのほか、特産品の赤じゃがの土寄せや収穫作業などの農業ボランティアを行なっている。地域イベントのかかし祭りにも参加し、祭りの後には赤じゃがの販売のお手伝いを行なった。また、地域のお年寄りが参加する敬老会の準備や催物の企画を行った際には、若い方が来てくれて嬉しいと地域の方からも喜ばれた。今後は、動植物の生態についても学習し、里山整備にあたっては、その知識を活かして生物多様性を保持しながら遊歩道やビオトープの整備を進めていきたいと考えている。

《活動報告5》 神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会

重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けた篠山市福住地区において地域貢献活動に取り組んだ。地区の特産品を取り扱う一本杉販売所での販促活動として、販売所のFacebookを地域の方に代わって定期的に更新作業を行なったところ閲覧数が増加した。また、担ぎ手となる若者が少なくなった地域の祭礼への参加を通じて交流を図った。さらに、獣害対策として、田畑を荒らす鹿の捕獲柵を設置するとともに、捕獲した獣を地域資源としてジビエ料理への活用を図り、獣害と観光を結びつけることで福住地域の観光へと繋げていきたいと考えている。

《活動報告6》 兵庫医療大学東洋医薬部門

漢方薬の薬草栽培が盛んな丹波市山南町和田地区で「丹波地方の薬用作物や農産物の新たな活用法を発見する」をテーマに取り組んだ。同地区で栽培されている薬草のトウキの葉は漢方薬として使用されずに廃棄されており、薬食同源の考えから生薬の独自の調理法やレシピなどを考案することで新たな活用法を考えた。食材の性質や身体にもたらす効果作用を調べ、トウキの葉を使ったコンソメスープとトウキの葉のクッキーを製作して「漢方の里まつり」に來られた地域の方々に提供し、普段の食事にも健康を心掛けるセルフメディケーションの推進を提言した。また、丹波地域の薬草文化に関するポスターを掲示したところ、地域の方でも漢方についてあまり知らないことがわかり、地域外へのPRのみならず地域の方に地域の文化を知ってもらうことも必要であることがわかった。更にトウキの葉を使用したレシピの開発を進め、丹波市立薬草薬樹公園で試食会を行なう予定である。

《活動報告7》 Wake UP 柏原

丹波市柏原町で元気を入れるためのイベントの開催と丹波市中心市街地活性化計画（第2期）に向けた提言作成を行なっている。夏にはハピネスナイトマーケットの開催にあわせて関学柏原スタジオをKGカフェとして開放し、バイオリンなどの演奏会や、演奏の合間には来場者にお手製のドリンクを提供し地域の方との交流を行なった。

提言作成の一つとしてJR柏原駅の利用客の増加や駅前広場の有効活用を図るため、福知山線の他の駅を調査・比較し、柏原駅の内部空間、駅前広場、駅周辺施設、柏原の景観の良さを含めた一体的な複合施設として設計提案をしていく。この他にも空き家活用、夜の柏原に着目した街灯調査、八幡公園の活性化、ハピネスマーケットの研究を行っており、年度末に報告会を開催しその成果を報告したいと考えている。

《活動報告8》 AGLOC

留学生の「農村での活動はとてもおもしろそうだ」の一言をきっかけに今年度設立され、「地域と、世界を、繋ぐ」をテーマに篠山市岡屋地区で活動を行っている。今まで目を向けられて来なかった日本の地域の魅力を世界に発信することを理念に、『魅せる』、『馴染む』、『広める』の3つの段階を踏み、地域活動に留学生を巻き込んで、彼らとともに地域と世界を繋げている。毎月行う農業体験を通して地域の魅力を「魅せる」、地域の施設でのウェルカムキャンプの実施や祭りへの参加により地域文化への理解を深めて地域に「馴染む」、その体験を留学生が自国の言語によりFacebookで「広める」ことを行なっている。今年度の成果としては、多数の留学生がメンバーに定着したこと、全国の農林水産系のサークルが参加する農林水産省主催の『食と農林水産大学生アワード』ファイナリスト選出されたこと、地域の特産品の開発協力をした『山の芋パンケーキ』がクックパッドで1位になったことなどである。